

図書館通信

最上校図書委員会 No.17 10月18日

2022 第76回読書週間

10月27日(木)～11月9日(水) 14日間
今年度も読書週間が始まります。

食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋・そして、読書の秋！
いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割をはたすことはかわりありません。



暮らしのスタイルに人生設計のなかに、新しい感覚での「本との付き合い方」をとりいれていきませんか。『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがりやを、期待いたします。

標語「この一冊に、ありがとう」

図書委員会企画

ハロウィントレジャーハント！

期間：10月18日(火)～31日(月) 時間：昼休み・放課後

方法：本の表紙裏にカードが入っています。

カードの入っている本を探しましょう。

プレゼントとカードを交換します。

※いろいろなプレゼントを用意しています。お楽しみに！！



読書週間にオススメの新刊！



『祈りのカルテ 再会のセラピー』 知念実希人著

諏訪野の脳裏に蘇るのは、親身に寄り添ってきた患者たちのこと。まるで戦場のような救急部、心の傷と向き合う形成外科、かけがえないある人との出会いと別れを経験した緩和ケア科。切なくもあたたかな記憶の扉がいま開く。感涙必至、心震える医療ミステリ。

『汝、星のごとく』 凧良ゆう著

その愛は、あまりにも切ない。正しさに縛られ、愛に呪われ、それでもわたしたちは生きていく。生きることの自由さと不自由さを描き続け紡ぐ、ひとつではない愛の物語。まともな人間なんてものは幻想だ。俺たちは自らを生きるしかない。

『嘘つきジェンガ』 辻村深月著

詐欺をめぐる3つの物語。

2020年のロマンス詐欺・五年目の受験詐欺・あの人のサロン詐欺。

『浅草ルンタッタ』 劇団ひとり著

圧倒的祝祭に満ちた物語。行き場をなくした女たちが集う浅草の置屋「燕屋」の前に、一人の赤ん坊が捨てられていた。かつて自らの子を亡くした遊女の千代は、周囲の反対を押し切って育てることを決める。お雪と名付けられた少女は、燕屋の人々に囲まれながら、明治から大正へ、浅草の賑わいとともに成長する。

『犬を盗む』 佐藤青南著

高級住宅地で一人暮らしの老女が殺害された。部屋には、かつて犬を飼っていた痕跡があり、刑事たちは周辺の捜査を開始する。一方、雑誌記者の鶴崎は、あるスクープをモノにするためコンビニでアルバイトを始める。同じコンビニで働く松本の過去を知る鶴崎は、松本が突然犬を飼い始めたことに驚愕するが。深まる謎、犬との絆に感涙＆一気読み必至！

※ぜひ、図書館へ



2022年発表 オススメ新刊図書



『教育』 遠野遥著



勝てば天国、負ければ地獄の、規律と欲望が渦巻く学校。私の幸せは、正しいのか？ 人間の倫理を問う。ようこそ、危険な学園へ。

全人類、未体験の読後感！！

『誰かがこの町で』 佐野広実著



人もうらやむ瀟洒な住宅街。外界から隔絶された町で、19年前に何が起きたのか。いま日本中のあらゆる町で起きているかもしれない惨劇の根源を追うサスペンス！

『母の待つ里』 浅田次郎著



生まれ育った場所だけが「ふるさと」ですか？

現代人に本当の幸せを問う？半信半疑で向かった先には奇跡の出会いが待っていた。雪のように降り積もる感動、全く新しい家族小説にして永遠の名作誕生！

『鑑定人 氏家京太郎』 中山七里著



民間の科学捜査鑑定所。所長の氏家は、女子大生3人を惨殺したとされる猟奇殺人犯の弁護士から再鑑定の依頼を受ける。相対する警視庁科捜研との火花が散る中、裁判の行く末は？驚愕の結末が待ち受ける、圧巻の鑑定サスペンス！

『奔流の海』 伊岡瞬著



坂井裕二の存在が千遥の大学進学への思いを後押しすることになる。また裕二は過去に何か事情があったらしく、その謎に千遥は惹きつけられていく。裕二の過去には何があったのか？千里見町の20年前の豪雨がもたらしたものは？濁流に押し流される人間の運命が慟哭を呼ぶ、愛と哀しみの青春ミステリー。

『特許やぶりの女王』 南原詠著



特許権侵害を警告された人気VTuberを救うべく、特許の専門家・弁理士の豪腕が炸裂する！魅力的な新ヒロイン登場！



『砂嵐に星屑』 一穂ミチ著

日々頑張るあなたが、きっとこの本の中にいます。世代も性別もバラバラな4人には、それぞれの悩みや壁がある。つらかったら頑張らなくてもいい。でも、つらくたって頑張ってみてもいい。続いていく人生は、自分のものなのだから。



『タラント』 角田光代著

片足の祖父、不登校に陥る甥、“正義感”で過ちを犯したみのり。心に深傷を負い、あきらめた人生に使命タラントが宿る。



『オオルリ流星群』 伊与原新著

行き詰まった人生の中で隠された幸せに気付かせてくれる静かな感動の物語。

『タイムマシンに乗れないぼくたち』 寺地はるな著

孤独と「戦う」わけではなく、また「乗り越える」でもなく、仲良く手を繋いでとまではいかないけれども、孤独とちょうどよい距離を保ちながらともに生きていこうとするような、そういう人びとの物語を書きました。

『春のこわいもの』 川上未映子著



東京で6人の男女が体験する甘美きわまる地獄巡り。

これがただの悪夢ならば、目をさませば済むことなのに。

『ミシンと金魚』 永井みみ著



この世に生まれ落ちて、いつの日か死を迎え、この世を去る。誰もが辿るその道を、圧倒的な才能で描き出す号泣必至の物語です。

『夜行堂奇譚』 嗣人著



人の情念や想いが、人ならざるものとなり引き起こす、数々の呪いと悲劇。その様を静かに眺める、夜行堂店主の真の目的とは？

『空にピース』 藤岡陽子著



公立小学校教諭のひかりは、都内の赴任先で衝撃を受ける。立ち歩き、暴力、通じない日本語。強くならなければ、子どもたちは守れない。過酷な環境で生き延びる子らに、悩みながら寄り添うひかりが最後に見た希望とは。

